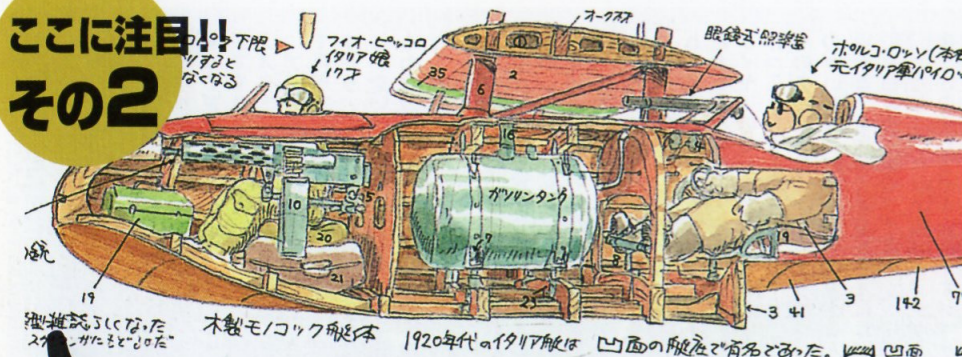


ここに注目!!
その1



▲翼構造。リブは合板を再現していて、場所によって肉抜き穴の形状を変化させるなどのこだわりが見とれる。より本物らしく仕上げようとした結果だ

ここに注目!!
その2



木製モノコック機体 1920年代のイタリア機は凹面の機体を有名とされた。凹面

▲▲上は唯一の資料である(?)「飛行艇時代」の宮崎さんのイラスト(小社刊「宮崎 駿の雑想ノート」増補改訂版)に収録)だが、これをもとに多少のアレンジを加えた胴体内部。銀色の燃料タンクがよいアクセントになっている



Aéro-club "Nibariki" 2CV

二馬力飛行倶楽部

「リアルさ」と「妄想」の絶妙なブレンド

る一方で、原作のイメージをも重視して製作してきた」と語るが、その作業とはまさに、虚構と現実の狭間で遊ぶことに他ならない。宮崎監督に心地よくだまされた矢野氏が、今度は自分がだます側になって製品を開発する。そしてその間に、間違いなく多くの人がはまってしまっているのだ。今回発売されたこのカットウェイモデルは、同社S-21シリーズのまさに集大成というべきものである。本物らしさにこだわりの抜いた細部表現と、原作の持つフィクションの要素とが見事に共存したこのモデルの魅力に、いったいどれほどの人が酔いしれることになるのだろうか?

「紅の豚」のそういった魅力にとりつかれた矢野氏が、サボイアS-21のデスクトップモデルがほしい!と考えるのは必然で、実際、ウイング・クラブのS-21デスクトップモデルの開発のきっかけになったのは、そうした矢野氏の想いだったようだ。S-21のモデルについて氏は「リアルさを追求す

■虚構と現実の狭間で……
宮崎監督もあっけにとられた、ウイング・クラブ渾身の作品!!

久々の登場となる「二馬力飛行倶楽部」。間が開いてしまったぶん、というわけではないのですが、今回は超絶な逸品をご紹介したいと思います。それがこのウイング・クラブのサボイアS-21カットウェイモデル。胴体内部や翼構造など、本物らしさにこだわった精密な細部表現と、原作のイメージを大切にしたいアウトラインとが見事に融合した、まさに究極のモデルです。製品紹介に合わせてウイング・クラブ代表、矢野氏にお話を伺うことができたので、そちらも一緒にお楽しみください